

東京八王子西ロータリークラブ会長賞

西堀 颯人 (にしぼり はやと) 第四小 4 年生

作品名:「ネバーギブアップ」を読んで

図 書:ネバーギブアップ!

この物語は、クラスで一番うですもうが弱いジュンという男の子が、うですもう大会でゆう勝するために、担任の先生とジュンのお姉ちゃんと、特訓するお話です。

一番心に残ったのは、一番弱かったジュンが、決勝にあがったところです。しかも相手は、クラスで一番強いタクヤという男の子です。たたかっている、あきらめかけた時、お姉ちゃんが「わたしに勝ったんだから、ぜったい、勝ちなさいよ」と応えんしに来てくれました。そして、あきらめずにがんばったら、ジュンはゆう勝できました。

ぼくは、ドキドキしました。どちらが勝つのか、ぼくの方がハラハラしました。お姉ちゃんの声をきいたジュンは、「お姉ちゃんの期待にこたえるぞ。ぜったいに負けるわけにはいかない。」と思ったのではないかとおもいます。そして、あきらめないことは、大切だなと思いました。そしてぼくは二年生の時のことを思い出しました。

ぼくは二年生の時に、なわとびがうまくなりたくて、学校から帰るとすぐに、なわとびをやりました。朝でも昼でも夜でも、かまわず練習しました。ぼくの学校には、なわとびカードがあります。一番上が名人で二番目は特級です。そのときぼくは三級でした。そこでつまづいて、なかなか進級できませんでした。がんばっているとジュンのお姉ちゃんと同じように、ぼくのお兄ちゃんも応えんしてくれたり、コツを教えてくれました。そして三年生になったらうまくなり、とうとう特級になりました。四年生になった今でも、学年で一番の子には、勝てません。それでもジュンのように、あきらめしないで、学年で一番になれるようにがんばりつづけようと思います。

大切なことは、どんなにつらくてもあきらめないことだと思います。そして、自分だけでなんでもできるようになったとは思わないで、応えんしてくれた人のおかげでもあることをわすれないようにしたいと思います。なぜなら、一人ではくじけ

そんな事でも、応えんはがんばる気持ちをささえてくれると思うからです。